

公共工事は必要です

「すべての人に感謝」
「抜本的対策も要望」

豪雨、道路崩壊…

2006年8月31日の大雨により、県道野母宿線(長崎市茂木町宮摺トンネル付近)が崩壊。延長50m、幅6mのほとんどが陥没した。さらに迂回(うかい)路の林道でも道路の陥没が発生。幸いに人的被害はなかったものの、近隣住民への影響は大きかった。

宮摺地区自治会長の木村速人さんは、「9月1日の午前3時30分ごろに道路異常の報告を受けた」。真っ暗な中、道路のひび割れを確認。早朝、大崎など3地区へ有線放送で通行止めの連絡を行った。日が昇り長崎土木事務所の職員が到着。「長崎土木事務所や茂木支所の皆さんにほんとうによくしていただいた。特に土木事務所道路維持課の方々は、徹夜で現地の監視をされていた。頭の下がる思いだった」と、昼夜を問わず監視を続け、その後も早期復旧に向け頑張る姿に感銘を受けたという。



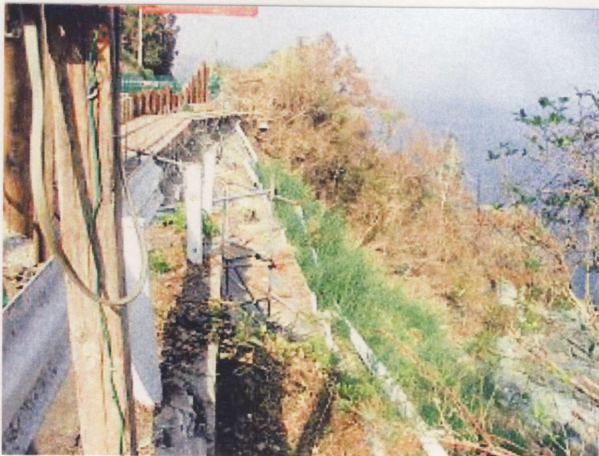
宮摺地区自治会長
木村速人さん

ただ、マスコミ報道などではあまり注目されないが、(社)長崎県建設業協会長崎支部の動きにも目を見張るものがあった。同支部は昨年11月28日、大規模災害が発生した際、初期段階における緊急対応を行うための支援活動に関する協定書を長崎土木事務所および大瀬戸土木事務所と締結している。

同支部事務局によると、「9月1日午前9時ごろに長崎土木事務所より、災害協定による出勤要請があった。すぐに当該ブロックの幹事社などに連絡、わずか30分後には幹事社が、1時間以内にはブロック所属の7社が現地に到着。全面通行止めの措置やガードマンの配置を終了した」。経験豊富なプロ集団の活躍も見逃せない。

木村自治会長は、「すべての人々が熱心に取り組んでくれたことに大変感謝している。今後は一刻も早く、本格的な復旧を進めて欲しい」とした上で、当該地区の抜本的な安全対策を行うため、「迂回路の整備やトンネルなどの整備が必要不可欠。来年以降も同じ心配をしなければいけない」と、不安ものぞかせた。9月28日に片側1車線で仮復旧したものの、将来的不安は消えてはいない。

公共事業費の削減が続き、不要論まで叫ばれる中、安心・安全を確保し、県民の財産を守るため、県や市、建設業界が一体となって努力していることを多くの方々に知って欲しいものだ。



道路崩落現場



仮復旧道路